

# 東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2024

## 「はつらつと生きる ～大学は知の宝庫～」

第9回 12/20 (金) 13:30～16:00 報告

チャイコフスキーのバレエ「くるみ割り人形」

講師 菅野 道雄 (本学教授)

於：図書館大セミナー室

\*◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*

令和6年度第9回公開講座が12月20日(金)に開催されました。

今回の講師である菅野先生は、クラシック音楽を話題にした講座で、毎年アンカーを務めています。昨年はモーツァルトの田園劇である「バスティアンとバスティエンヌ」という歌劇が取り上げられましたが、今年度のテーマが「はつらつと生きる」ということなので、念願のチャイコフスキーのバレエを取り上げることになりました。

今年は、いつもより少し長めに時間を取っていただき、クリスマスシーズンにふさわしい「くるみ割り人形」を全曲見ていただくことにしました。

欧米では、クリスマスシーズンになると、子どもたちが、普段は入れないオペラハウスに入れるのを楽しみに待っています。フンパーディンクの「ヘンゼルとグレーテル」やメロツティの「アマールと夜の訪問者」のような子ども向きのオペラもいくつかありますが、圧倒的に頻繁に上演され、人気を呼ぶのがこの「くるみ割り人形」です。なにしろ、クリスマスにふさわしい華やかさに溢れていますし、「花のワルツ」をはじめとする名曲ぞろいです。子どもに親しみやすいバレエの代表作です。

今回の講座では、演出のピーター・ライトのプロダクションを見ました。そのあらすじは次のようです。

舞台は19世紀初めのニュルンベルクです。機械仕掛けの時計や人形を作っているドロツセルマイヤーは、宮廷の注文でネズミの半数を殺してしまうネズミ捕りを発明しました。その復習としてネズミの女王は彼の甥を醜いくるみ割り人形に変えてしまいました。その呪いを解くためには、くるみ割り人形が勇敢に戦ってネズミの王を倒すことと、さらに一人の少女が醜いくるみ割り人形に愛情を抱くことが必要です。

シュタールバウム家のクリスマス・パーティに招かれたドロツセルマイヤーは、これこそ待っていたチャンスだと考えます。彼はシュールバウム家の娘クララの名付け親でした。クララは14歳になったばかり、くるみ割り人形にされた甥は15歳になっていました。クリスマスはジンジャーブレッドを盗み食いに来るネズミたちとくるみ割り人形が戦うための絶好の機会です。

ドロツセルマイヤーはクララのお守りにクリスマスの天使の人形を贈ることにします。召使いが天使の人形を届けに来ます。子どもも大人も賑やかにクリスマスを祝っています。届いた天使は大きなクリスマスツリーのてっぺんに飾られます。ドロツセルマイヤーが到

着して子どもたちのために様々な人形を出して見せ、アルルカンやコロンビースが躍ります。彼はクララにくるみ割り人形をプレゼントし、クララはそれがとても気に入ります。楽しいパーティもお開きになり、子どもたちは寝室に行かされます。静かになった部屋はドロッセルマイヤーの魔法の世界になり、彼は時間を止めてくるみ割り人形を抱いたクララをそこへ導きます。

ネズミの大軍とくるみ割り人形に率いられた鉛の兵隊が戦います。ネズミの王との戦いでくるみ割り人形はあわや殺されそうになるが、クララの一撃が彼を救います。倒れていたくるみ割り人形は素敵な青年に変わります。ドロッセルマイヤーはクララと甥を魔法の旅に送り出します。クララたちは雪の精が踊る雪の国を旅します。それから天使の人形たちに導かれて旅は続きます。クララたちは金平糖の精と美しい王子に迎えられます。若いカップルを歓迎して様々な趣向を凝らした踊りが繰り広げられます。金平糖の精と王子もグラン・パ・ド・ドゥを踊り、華麗なフィナーレとなります。

大人たちがパーティから帰っていきます。我に返ったドロッセルマイヤーも帰路につきます。彼が家に戻ると、そこには長い間行方知れずとなっていた甥の姿があり、呪いが解けていました。

今回の講座ではバレエをDVDで鑑賞したが、オペラハウスで見ている子どもたちの喜びを容易に想像できました。受講者たちはしゅしぶ現実の世界に戻り、家に帰って行きました。

#### 【講座の様子】

